

春国岱における シギ・チドリ類の秋の渡りについて

黒沢信道

1983年8月から11月まで、北海道根室市春国岱全域の水禽カウントを継続して行なう機会があった。これは、根室市が計画する春国岱原生野鳥公園の基礎調査の一部として委託されたものである。この結果よりシギ・チドリ類の秋の渡りについて興味ある知見を得たので、ここにまとめて報告する。諸兄のご批判をあおぎたい。

調査の概略

調査は1983年8月から11月までの4か月間で、毎月2回ずつカウントを行なった。調査日は8月11日、21日、9月4日、15日、10月2日、23日、11月3日、27日である。時刻は、その日より潮の状態を勘案し、なるべく最大数を記録できるような時間帯に行なった。調査地域は、春国岱全域とそれを取りまく干潟である。全域をくまなくカウントするため、毎回1班が2～3名より成る4班を編成し、それぞれの分担地区を定め、重複のないよう細心の注意を払ってシギ・チドリ類すべてをカウントした。種の識別には8～9倍双眼鏡、25倍望遠鏡を用いた。

結果および考察

1. 総個体数の変動

カウントされたシギ・チドリ類のうち、個体数の多かった8種を表1に示した。また総個体数の変動を図1に示した。図1より総個体数は8月と10月に2つのピークを示した。

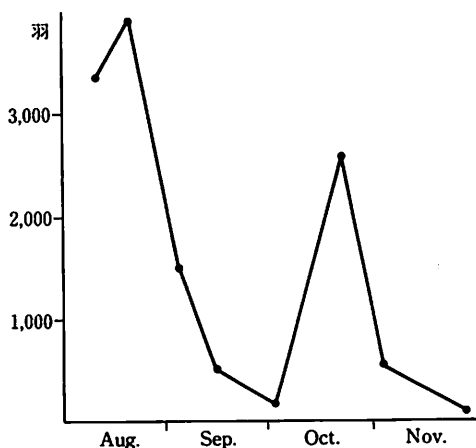


図1. 総個体数の変動(1983).
Fig.1. Changes in the total numbers (1983).

その成因は、8月のピークはキアシシギ、トウネン、メダイチドリなどによるもので、10月のピークはハマシギによるものであった(表1)。すなわち「秋の渡り」と言っても、鳥種により時期が明らかに異なっており、それが総個体数二峰化の原因となっている。

2. キアシシギの渡来時期

この種毎に異なる渡来時期が日本各地で普遍的なものかどうかを見るため、春国岱と他地域のデータを比較してみたい。

キアシシギについて、図2に春国岱における渡来パターンを示した。さらに既存資料より、風蓮湖(高田他 1980)、葛西(日本野鳥の会 1979)、相模川(相模川河口鳥類研究

表1. 春国岱における上位8種の個体数
Table 1. Dominant shore birds in Shunkunitai.

SP	/Date	8/11	8/21	9/4	9/15	10/21	10/23	11/31	11/27
メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	425	402	69	152	5	1	5	
ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>	61	22	4	6	13	67	15	
キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>	91	63	24	10	1			
トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	908	78	409	148	13	6	3	
ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>			10	4	22	2,457	538	22
ミュビシギ	<i>Crocethia alba</i>			4	34	72	58		
キアシシギ	<i>Tringa brevipes</i>	1,863	3,262	649	47		1		
アカエリヒレアシシギ	<i>Phalaropus lobatus</i>			59	94				
	total	3,376	3,919	1,469	524	136	2,599	561	22

グループ 1979) も図示した。これによれば、年に関係なくまた日本各地において、ほぼ同じパターンでキアシシギが渡来していることがうかがえる。すなわち、キアシシギは8月中旬に渡来のピークがあり、9月中旬には大部分が渡去している。野付半島(三浦他 1984)、蒲生(花輪他 1975)、伊勢湾(愛知県鳥類保護研究会 1980)、でも同様のパターンが見られた。

高野(1982)と Hyman, Marchant and Prater (1986) より、数種のシギ・チドリ類の繁殖地と越冬地の位置関係を図3に示した。キアシシギは、他種に比べ繁殖地が日本により近く、越冬地がより遠くにある。このため、秋の渡りとしては早い時期に日本を通過してしまう可能性がある。

標識鳥の回収例によれば(山階鳥類研究所 1985)、キアシシギの成鳥を1965年8月29日に千葉県で放鳥したものが、年度は変わるが1966年9月11日にオーストラリア東南部のクインズランドで再捕獲された。この確認は、キアシシギの秋の通過が早い時期にあることを示唆している。キアシシギと同様の渡来パターンを示すメダイチドリも、繁殖地は日本

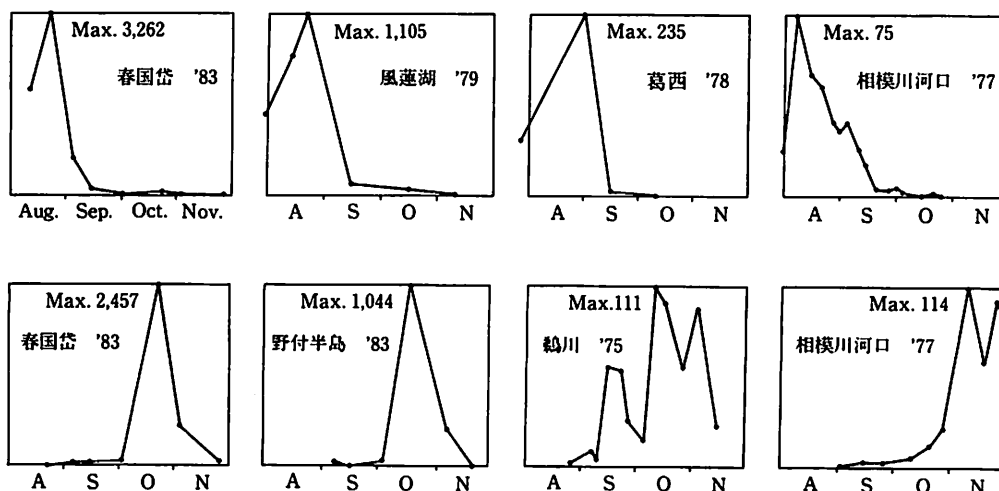


図2. 国内各地におけるキアシシギ(上)、ハマシギ(下)の個体数変動。
Fig.2. Changes in the number of *T. brevipes* and *C. alpina*.

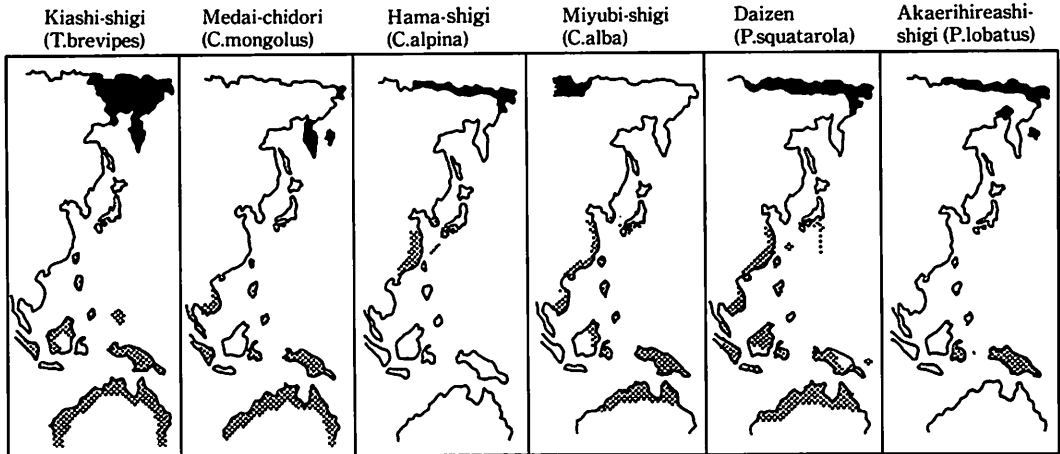


図3. 6種のシギ・チドリの繁殖地(黒)と越冬地(点).
Fig.3. Breeding and wintering area of six shore birds.

に近く、越冬地は遠い傾向にある。

3. ハマシギの渡来時期

ハマシギの場合は図2のように、どの地域においても渡りが後半の時期にかたまと考えられる。ただし高緯度地方ではやや早い時期に増加している(鵜川)ようだし、東京以南ではそのまま越冬するものも少なくない。図3を見ると、繁殖地は日本から遠く越冬地は近いため、渡りとしては遅くなって通過する可能性がある。ミュビシギも繁殖地と越冬地の位置関係がハマシギと似ており、渡来数の変動は同様のパターンを示している。

4. 長期に及ぶ渡りと短期の渡り

ダイゼンは8月から11月初めまで、多少の増減はありながら継続的にカウントされた。この傾向は、北海道内外の他地域でも確認されている。ダイゼンの繁殖地、越冬地を見ると、越冬地が広く、遠くから近くまであることがわかる。このため長期にわたって通過していくのではないと思われる。しかし、同じ個体が長くどどまっているのか、続々と入れ替わっているのかは不明である。それに対し、アカエリエアシシギは9月だけの短期的な通過パターンを示している。これは繁殖地が遠く越冬地も遠いため、渡りの中継点で観察していると、短期間に集中して通過してしまうものと思われる。

5. 従来の一斉調査について

春国岱においては、従来9月15日のシギ・チドリ類全国一斉調査では個体数が少数しか記録されていない。その理由は、春国岱の秋の渡りにおいて、9月15日は端境期だったためである。前半期に渡るパターンを示すシギチドリは既に南方へ去り、後半期に渡るパターンを示すものはまだ渡来していないのである。キアシシギ、ハマシギ、メダイチドリについては他地域においても、殆んど春国岱と同様の結果になっていたらしい。

1983年9月15日の全国一斉調査結果と春国岱のデータをつき合わせてみると、春国岱だけで8月に3,262羽も記録されたキアシシギが、9月15日には春国岱で47羽、全国で1,843羽としかカウントされず、10月には春国岱だけで2,457羽も渡来するハマシギは、9月15日に春国岱で4羽、全国で1,631羽と集計されてしまうのである。

今までの一斉調査の結果については、このような事実を知った上で論じる必要がある。

また、今後の全国的な調査計画においては、前述のような視点からも慎重な配慮がなされるべきである。また、さらに真実に迫るためには、各地にある重要渡来地での継続的観測や、それを裏付ける証拠となる積極的な標識調査が必要であることは言うまでもない。

おわりに

本調査に協力下さった根室支部の皆様とこの報告に御批評下さった道東鳥類談話会の皆様に心よりお礼を申し上げます。

文 献

- 愛知県鳥類保護研究会. 1980. ちどりの叫びしぎの夢(伊勢湾干潟鳥類一斉調査報告書). 愛知県鳥類保護研究会.
- 花輪伸一・武石全慈・小山均・竹丸勝朗. 1975. 蒲生海岸に生息する鳥類, 蒲生干潟の環境保全に関する基礎的研究. 宮城県.
- 小林清勇・萩千賀・羽田恭子. 1976. 昭和50年秋の鶴川河口観察記録. 北海道野鳥だより22号, 北海道緑化推進委員会.
- 三浦二郎・阿部嗣・柏川真隆・北川雅之・早川嘉彦・藤井薫. 1984. 野付半島国設鳥獣保護区設定等調査報告書. 北海道.
- 日本野鳥の会. 1979. 葛西沖公園野鳥生息現況調査報告書. Bird Report '79 No.1.
- 日本野鳥の会. 1984. 日本野鳥の会全国一斉調査結果報告. Strix VOL. 3.
- 相模川河口鳥類研究グループ. 1979. 相模川河口の鳥類その2.
- 高田勝・三浦二郎・大橋勝彦・加藤義則・高本東海・黒沢信道・橋本正雄・中川元・正富宏之. 1980. 風蓮湖およびその周辺の水・渉禽類ならびに陸鳥類調査. 野鳥生息環境実態調査報告書一風蓮湖. 北海道.
- 高野伸二. 1982. フィールドガイド日本の野鳥. 日本野鳥の会.
- 山階鳥類研究所標識研究室. 1985. 日本の鳥類標識調査.
- Hayman, P., J. Marchant & T. Prater. 1986. SHORE-BIRDS. CROOM HELM, London.

Autumn Migration of Shore Birds in Shunkunitai Wetland

Nobumichi Kurosawa

Semi-monthly shore bird counts were conducted in Shunkunitai wetland, Nemuro city, Hokkaido from August to November 1983. The number of shore birds (Family CHARADRIIDAE and SCOLOPACIDAE in this report) increased in August and October. The dominant species in August were the Great-tailed Tattler (*Tringa brevipes*), the Rufous-necked Stint (*Calidris ruficollis*) and the Mongolian Plover (*Charadrius mongolus*); in October it was the Dunlin (*Calidris alpina*). It was supposed that the species wintering far from Japan was dominant in August and the species wintering near was dominant in October.

Tsurui-shigai, Tsurui-mura, Akan-gun, Hokkaido.